

たけた活力創造計画 2006



竹田市総合計画

たけた活力創造計画 2006





は じ め に

本市の今後10年間の総合的かつ計画的な行政の運営を図るための指針となる竹田市総合計画を策定いたしました。

本計画づくりに際しては、素案作成の段階から竹田、荻、久住、直入各地域に設置された地域審議会の75名の皆様にご参画いただき、ご意見を伺う中で策定作業を進めてまいりました。また、市民の皆様から幅広くご意見をお伺いするため、市報やホームページによる広報活動も行いました。さらに、各分野の第一線で活躍されている27名の委員からなる竹田市総合計画審議会を設置し、いろいろな角度からご議論いただくとともに、市議会におきましても慎重なご審議をいただきました。このように「竹田市」の最初の総合計画は、多くの市民の皆様のご協力のもと、夢と希望のある計画にすることができたと思っております。

もとより計画づくりは、それ自体が目的ではなくスタートにほかなりません。少子・高齢化の進行、経済のグローバル化、高度情報化など本市を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、これらに対応するためには、市民、地域社会と行政が連携を図り、お互いの信頼と役割分担のうえで協働関係を確立しながら、まちづくりを進めていかなければなりません。

このため、本計画では、「自然と共生する住みやすい里づくり」「未来を担う心豊かな人づくり」「やすらぎと安心に満ちた支えあうくらしづくり」「自然の恵みを活かし結び合うまちづくり」「公民協働によるふれあう地域づくり」を基本方針とし、市民の皆様とともに「自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市」を築いていくこととしております。

夢と希望に満ちたまちづくりのために市役所一丸となって努力してまいりますので、市民の皆様並びに関係各位のご協力とご理解を切にお願い申し上げます。

平成18年 6 月

竹田市長 牧 剛 尔

◇第1部 序 論

第1章 計画策定にあたって	2
1－1 計画策定の趣旨	2
1－2 計画の性格	3
1－3 計画の構成	3

◇第2部 現況と課題

第1章 現況	6
1－1 位置と地勢	6
1－2 人口構造	8
1－3 基盤整備状況	11
1－4 産業	18
第2章 発展課題	24
2－1 時代の潮流	24
2－2 現況からみたまちづくりの課題	32

◇第3部 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念	41
第2章 まちづくりの将来像	43
2－1 将来像	43
2－2 まちづくりの基本指標	46
第3章 施策の大綱	50
第4章 将来像実現のためのまちづくり戦略	53
4－1 まちづくり戦略の意義と必要性	53
4－2 将来像実現のためのまちづくり戦略	55
4－3 まちづくり戦略イメージ	61

◇第4部 基本計画

第1章 自然と共生する住みやすい里づくり	64
1－1 自然との共生	64
1－2 生活基盤整備	71
1－3 道路・交通網整備	77
1－4 情報基盤整備	82
1－5 土地利用	86
1－6 市街地整備	88
1－7 消防・救急・防災対策	91
1－8 防犯・交通安全対策	96
1－9 温泉の有効活用	100
第2章 未来を担う心豊かな人づくり	102
2－1 生涯学習の充実	102
2－2 学校教育の充実	106
2－3 社会教育の充実	111
2－4 歴史や文化の保全・継承	115
2－5 芸術文化の振興	118
2－6 スポーツ・レクリエーション活動の支援	122
第3章 やすらぎと安心に満ちた支えあうくらしづくり	126
3－1 保健・医療サービスの充実	126
3－2 高齢者支援の充実	129
3－3 障がい者支援の充実	134
3－4 社会保障の充実	138
3－5 子育て支援の充実	140
3－6 地域福祉活動の強化	145
3－7 健康づくりの推進	148

第4章 自然の恵みを活かし結び合うまちづくり	152
4－1 農林・畜産業の振興	152
4－2 内水面漁業の振興	163
4－3 商業の振興	165
4－4 工業(製造業)の振興	168
4－5 観光の振興	170
4－6 就労環境の整備	177
第5章 公民協働によるふれあう地域づくり	179
5－1 地域経営の推進	179
5－2 協働まちづくりの推進	186
5－3 人権の尊重	191
5－4 ふれあい交流活動の充実	195

◇資料編

第 1 部 序 論

第1章 計画策定にあたって

1-1 計画策定の趣旨

平成17年4月1日、旧竹田市、旧荻町、旧久住町及び旧直入町が合併し、「竹田市」が誕生しました。本計画は、合併にあたって合併後10年間のまちづくりの羅針盤として策定された「新市建設計画」及び旧市町の総合計画を基本としながら、新生「竹田市」の今後10年間の「まちづくりの将来像」を定めて、行政運営上の指針として策定するものです。

21世紀初頭を迎え、少子・高齢化の進行、経済のグローバル化※、高度情報化など、社会経済情勢は急速に変化をとげています。また、地方における財政運営は、国の三位一体改革の名の下に、国庫補助金の削減や地方交付税の削減等、極めて厳しい状況にあります。

これまで旧1市3町は、各市町で総合計画を策定し各々の将来像を掲げ、まちづくりを進めてきました。しかしながら、このような時代の変化の中で全国的に市町村合併の気運が高まり、私たちのまちも活力に満ちた個性ある地域社会の実現を目指して希望に燃える新生「竹田市」として新たな一歩を踏み出しました。

今回策定する「竹田市総合計画」は、本市の現状を見据えるとともに将来を展望しつつ市域の一体的な振興を目指して、合併前の旧1市3町で策定した総合計画を継承・発展させるものです。

さらに、市民、地域社会と行政がお互いの信頼と役割分担で協働関係を確立し、「21世紀初頭の竹田市のまちづくり」を進めていくために、「まちづくりの基本理念」と「まちづくりの将来像」を設定し、それを実現するための施策の体系化ならびに総合化を図ることで、今後10年間の竹田市のまちづくりの指針とするものです。

※グローバル化：人々の行動や経済活動が国の枠組みを超えて地球規模で行われること。

1-2 計画の性格

本計画は、今後10年間の行政運営を進めるにあたり、本市の発展の可能性をあらゆる角度から探求し、市民の意向や国・県の施策との整合及び各行政分野の調和を図った総合的かつ計画的な指針です。また、施策の決定、予算編成の基本となるものであり、各分野における個別計画の上位計画として位置付けられるものです。

なお、本計画では、計画的な財政運営を基調とし、住民の意向を各種施策や事業の方向性に反映させるよう努めました。

1-3 計画の構成

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成されます。

(1) 基本構想

本市の現況と発展課題をもとにまちづくりの基本理念と将来像を定め、将来像実現のための施策の基本方向を示したまちづくりの根幹となるものです。

計画の目標年は、平成27年(西暦2015年)とします。

(2) 基本計画

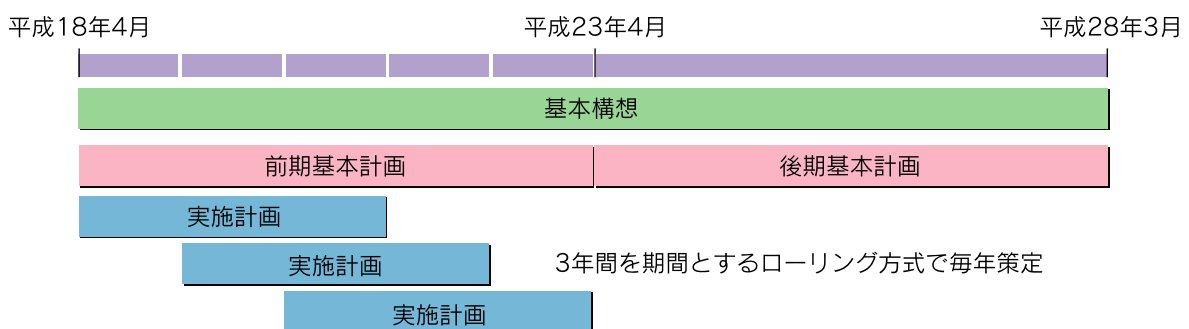
基本構想で示された施策の大綱に基づき、将来像の実現に必要となる具体的な施策を分野別に体系化したものです。

計画期間は平成18年度から平成27年度までの10年間で設定しますが、計画の進行状況や社会情勢の変化を見つめながら必要に応じて5年後に見直しを行い実効性の確保に努めます。

(3) 実施計画

実施計画は、基本計画で示された施策を事業として実施するために、事業の優先順位及び財政状況などに基づいて、3年間を期間とするローリング方式*で毎年度策定し、各種具体計画と調整を図る計画です。

また実施計画では、実施年度、事業内容、予算、実施方法を示し、各年度の予算編成に反映させていきます。



※ローリング方式：計画の実施状況などに応じて計画内容を定期的に見直ししていく方法。

平成17年7月27日、新「竹田市」発足記念式典に於いて発表した竹田南部中学校3年(当時)平井麻衣子さんのまちづくりに対する意見をご紹介します。

「たくさんの人の笑顔で…」

竹田南部中学校3年 平井麻衣子

私が生まれ育ったこの竹田市は、合併をして大きな市になりました。1市3町が集まってできたこの新しい竹田市の市民として私は「こんな竹田になってほしい」という願いがあります。

まず1つ目は、合併した1市3町のそれぞれのいい所を未来にずっと残して欲しいということです。

竹田は、水が豊かで、自然が美しい町です。部活で喉がカラカラな時、このおいしく、冷たい水が私の喉を潤してくれます。勉強で疲れた目を癒してくれるのも竹田の美しい自然です。私が生きていくなかで、この2つはなくてはならないものです。だから、絶対にこの2つを少しでも変えてはいけない、汚してはいけないと思います。これは、私たち若い人が守っていかなければいけません。しかし、今、竹田の人口は減ってきています。今を未来につなぐ世代の人がこの竹田から、都会に出ていっているということです。数年後、私たちは社会に出ると、職業につきます。しかし、この竹田で私たちが安心して仕事ができる場所、生活を送るために必要な店や病院などは決して多くないと思います。これでは、私たちは将来竹田に住んで、生活をしていけるのか不安になります。だから、2つ目の願いは、誰にとっても住みやすい竹田になってほしいということです。もちろん、お年寄りや障害を持った人にも優しい町であってほしいと思います。たくさんの人が仲良く協力していける竹田になってほしいです。

3つ目の願いは、合併した1市3町は、岡城、長湯温泉、久住高原など観光地としてすばらしい場所がたくさんあります。だから、このすばらしい所をこの竹田市に住んでいる市民はもちろん、大分県、そして全国の人に知ってもらい、訪れてほしいです。そのために、私たちにできることは、これから先、竹田を離れていくことがあったら、そこに住む人に自分の故郷のすばらしさを教えてあげることです。私は竹田のことをしっかりと知り、たくさん吸収してたくさんの人に教え、訪れてもらいたいです。

これからの竹田市は、どうなるか、全くわかりません。でも私のこの3つの願いは絶対に叶えてほしいし、私自身、自分のできることはやっと思いいます。未来の竹田市が人々の笑顔で溢れていることを願います。